

テクノロジー諮問委員会（第2回）

議事要旨

日時：2016年6月6日 8:00-10:00

場所：組織委員会虎ノ門オフィス役員会議室

議論内容（委員の主な意見）

【議論テーマ1】

「テクノロジーに関する対外的なメッセージ・フィロソフィー」について

- オリンピック・パラリンピック大会全体としてのフィロソフィーは何かと伺ったところ、大会ヴィジョンが示された。また、3つの基本コンセプト「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」がある中で、どうテクノロジーのフィロソフィーに落とし込んでいけるのかを議論して頂きたい。
- 安全、安心等の必要条件と、日本ならではのメッセージ性の強い十分条件とに分けて考えるべき。より強いテクノロジーの条件があっても良い。
- 人口知能、ビッグデータ、IOTなどの最新テクノロジー活用が叫ばれる中であって、世界に向けて東京2020は実験する場だと思う。世界に向けた実証実験の集大成の場というイメージ。これをどのような機会に変えていくか、先を見据えることが大事。そのような場になってほしい。
- 日本のスポーツ産業への貢献といった側面も必要なのではないか。大きなスポーツ産業はレガシーという意味がある。ビジネスや産業への貢献という目線を持つべきだと思う。
- アメリカではアメフトは伸びてきているが、野球は下火となっている。
- 10年前は、Jリーグとドイツ・ブンデスリーガにビジネス規模の差は無かったが、ここ10年くらいでブンデスリーガはプレミアリーグに匹敵してきた。ITでできることはたくさんあるが、スポーツ業界内でどうデータを使ってビジネスをするか企業経営者のマインドとスキルを持った人がスポーツ業界に少ないというのが問題。アメリカでは経営のレベルが上がって、近代的な産業化に成功した。
- スポーツの現場で新しいテクノロジーが導入されても、そこで収集されたデータがエンターテインメントとして活用されるためにはデータ流通の課題がある。日本の場合、データが組織をまたがって流通しにくい背景がある。恐らく組織的な問題もあるのだと思う。
- 「全ての人が自己ベスト」とあるが、ソーシャルメディアやスマートフォンを使って若い人達のエンゲージメントや見える化を活性化することで、そのデータがデジタルメ

ディアとして残る。「参加することに意義がある」というオリンピズムの理念にも繋がる。

- 「多様性と調和」はソーシャルメディアと親和性が高い。
- 「未来への継承」は、デジタルのオリンピックを記録（記憶）としてすべて残すことが大事なのではないか。オリンピックの記録をデジタルとして残す、ということを IT 側としてサポートでき、それがレガシーになるかどうかはわからないが、記録としては残していけると思う。
- 「テクノロジーが次の文化を生む」はメッセージとして十分条件になるのでは。「テクノロジーは楽しい」「未来は楽しい」というのも日本が生み出せるメッセージ。たとえば（日本ではロボットを身近な者として受容れる文化があることから）健常者と身障者とロボットが一緒になってレースをする、といったイベントなどは、機能価値としてはゼロでも、日本のユニークさをアピールできる。
- 提案したことが採用されることがあるという道をつけることが、一番盛り上がる。オリンピック・パラリンピックを盛り上げる 100 のアプリを募集します、というようなやり方が良い。最終的には、公式アプリの認証を与えることでさらに盛り上がると思う。
- 今、大学はグローバル人材教育や英語での発信等に力を入れている。大学に呼びかけて世界を巻き込む、リーダーシップをとることで、グローバル人材育成に貢献できるのでは。
- 本番を盛り上げるためには、参加型の仕組みにしなければ幅や深みが出てこない。広く募るような活動も重要、そのための体制も整えるべき。
- イノベティブな大会にするには、アウトプットだけでなく、そこに至るまでのプロセスがイノベティブでなければならない。
- マネージメントとイノベーションは、本来は別の組織でやるべき。

【議論テーマ2】

「競技観戦を支援するテクノロジー」について

- 観戦を支援するアイデアは、IOC、スポーツ、報道等のルールが明らかになればおのずとクリアになると思う。
- Wi-Fi については、電波干渉等を意識する必要がある。警備等、特定の目的で使用したいものについては、確実に使用できる仕組みは大事だと思う。
- Wi-Fi はセキュリティを解決しなければならないと思う。色々なデバイスが世界中から持ち込まれるので、セキュリティ要件や利便性を考えるのは難しいが、実施すべき。セキュリティを担保するための認証の仕組みが必要であり、組織委員会のテクノロジーサービス局が主導してやるべき仕事だと思う。
- 競技場において、災害時の安否状況確認や防災拠点としての整備を支えるものができれば良いと思う。
- 競技会場は、2020 年にはショーケースとなるが、ICT インフラは 4 年も経てば古くな

る。その会場をどのような頻度で、どう利用していくかを考え、必要なものを整備していくべき。

- 競技場の活用として、スポーツイベントもいいが、歌舞伎と ICT を組み合わせて発信するなど、若い人達にとっても伝統の継承の場になると思う。
- 選手のセンサーデータを観客へ提供するという点について、データをとって観客へフィードバックするという点も、想定できるかと思う。
- 大会運営に関わる地味なところ（ゴミ箱、お手洗い等）にも ICT が入っていくのはいいか。そのような裏側の見えないところ、華やかなところの裏側についても、知らしめていくということが重要なのではないか。他に、教育、環境や安全といった視点等も必要である。
- スポンサー企業を巻き込み、スポンサーが主催してパブリックビューイングを行えば、大会予算ではない部分で盛り上げることができると思う。

【まとめ】

- 第一に、大会の3つのコンセプトとしての必要条件に加え、「テクノロジーが文化を生む」「テクノロジーは楽しい」を十分条件として加え、実現していきたい。それを考えていく上でも、参加型でのアプリ開発は大変重要だろう。作り上げる成果物だけでなくプロセスもイノベティブであることが重要。そのために組織委員会の体制が、より整備されることが望ましい。
- 第二に、Wi-Fi がどこの競技場でも、セキュアに共通の仕組みで接続できることが望ましい。組織面、技術面、セキュリティの側面など、様々な課題があるが、ぜひとも実現・実施すべき。

【今後の対応】

次回は、9月26日開催

議題（予定）：リオ大会におけるテクノロジー視察報告／2020大会に向けた技術動向予測